

モモ「あかつき」の平棚栽培の特徴

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－モモ－整枝・剪定

2 担当者名

秋山祐輝、志村浩雄、阿部和博

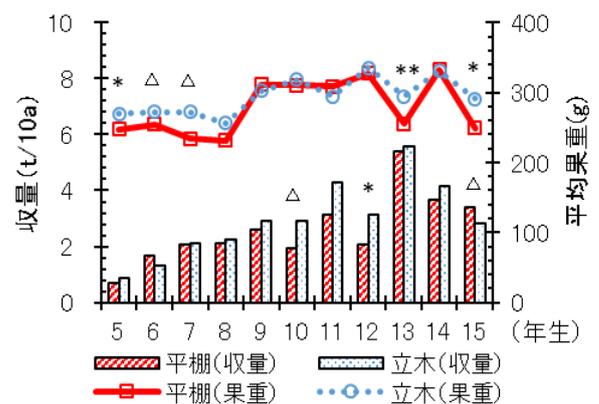
3 要旨

モモ「あかつき」の平棚栽培は、立木栽培に比較して、気象条件の影響により年次変動はあるものの、収量や果実の大きさは概ね同程度であり、着色や糖度は高い傾向が認められる。また、樹高や樹幅は小型に抑えられること、収穫時期はやや早く、収穫期間はやや短いこと、核割れ果の発生が多い傾向が認められた。

- (1) 平棚栽培は、地上 70cm で主幹を四分し、高さ 180cm の棚に四本主枝で整枝する。側枝は主枝の両側に肋骨状に配置する。植栽距離は 7×7m(20 本/10a)とする (図 1)。遊休化したナシ園等の平棚を有効に利用し、モモを栽培することも可能である。
- (2) 収穫時期は、年次間差はあるものの立木栽培と比較して 11 年間の平均で 1 日早く、収穫期間は、1 日短い傾向が認められる。
- (3) 平棚栽培の果実生産性 (5～15 年生平均) は、収量、平均果重、商品果率は立木栽培と同等であり (図 2)、果実品質 (9～15 年生平均 (13 年生除く)) は、糖度が高く、着色が良いが、核割れ果の発生も多い傾向が認められる (データ省略)。



図 1 開花期の樹姿



注 1)立木栽培は、6×7m (24 本) 植えの開心自然形とする。

注 2)分散分析により**、*、△はそれぞれ危険率 1%、5%、10%で有意差有り。

図 2 収量と平均果重の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 革新的栽培技術体系による省力・高品質生産技術体系の確立

5 主な参考文献・資料 なし